

# 白藍塾オリジナル

## 2017入試小論文分析&解答のヒント

2017年4月発行

白藍塾の入試小論文分析は、他の予備校と違って、その問題に対して受験生がどのようにアプローチすればよいのかを具体的に説明している。そのため、この分析を参考にすれば、誰でも合格レベルの答案を書けるはずだ。該当の大学・学部の志望者は、ぜひ、これを読んで、自分で実際に答案を書いてみてほしい。

執筆・大原理志

### ●慶応・総合政策学部

SFCは変則的な出題をすることが多いが、今年度は研究のためのアプローチの方法を考えさせた上で、それを踏まえて実際にデータを分析させるという、2015年度に近いタイプの問題となった。統計データの扱い方が問われている点では、昨年度も含めて3年連続で同傾向の出題と言ってよい。ただし、統計学の方法論の理解が求められた2015年度や、複数の資料の比較対照が求められた昨年度に比べると、資料も読みやすく、取り組みやすい内容になっている。とはいえ、オーソドックスな小論文問題もなく、昨年度の「格差社会」のような明確なテーマ設定もないので、とまどった受験生も多いだろう。

7つの資料があるが、資料1～4は問1用、資料5～7は問2・3用と、それぞれ役割分担がされている。

問1では、因果関係と相関関係の違いと、「相関関係から因果関係に迫るにはどうすべきか」の説明が求められている。

簡単に言えば、因果関係とは、Aが原因となってBという結果が生じたことが明白な場合を言うのに対し、相関関係とは、AとBのどちらが原因でどちらが結果かわからず、両者には何らかの関係があるとしか言えない場合を言う。相関関係から因果関係に迫るには、資料2にあるように、できるだけ多くのデータを集めて統計的に実証するか、資料3にあるように、他の変数の影響がなくてもAとBの相関関係が確認できるかどうかを実証する、などの方法がある。そうしたことを、字数に合わせて説明すればよい。

問2は、糖尿病の死亡率と平均年収の散布図(図1)を見て、両者の関係の構造を図で表わすという問題。「図で表わす」と聞いただけで苦手意識を持つ人もいるかもしれないが、図示化の方法が具体的に説明されているので、それに従ってできるだけ簡潔に描けばよい。

図1からは、「平均年収が低いほど糖尿病死亡率が高い」という相関関係があることがわかる。ただし、これを単に「両者には因果関係がある」と解釈するだけでは答えにならないことは、問1の内容を踏まえればわかるはずだ。

設問には、「資料5～7を踏まえ、必要に応じてさまざまな要因を加え～」とあるが、資料5～7は別に糖尿病の話題を扱っているわけではないので、どんな要因を加えるかは、それらを参考に自分で考えるしかない。ただ、設問の「注」に、肥満を要因とするタイプに限定して考えること、また資料2に、糖尿病の原因の一つとしてカロリーの過剰摂取があることが

書かれているので、まずは「肥満（カロリーの過剰摂取）」を糖尿病の直接の原因と仮定した上で、それと平均年収との間にどのような（複数の）要因とのかかわりがありうるのか、あれこれ考えているとよい。

たとえば、資料5によれば、子どもの頃に自制心が強かった人は学力が高く、また肥満になりにくい。つまり、肥満になりやすい（つまり糖尿病になりやすい）一因として、自制心が弱いことが考えられる。一方、自制心が弱くて学力が低ければ、大人になってもよい職に就けず、年収もそれほど高くないだろう。こうして、平均年収の低さと糖尿病死亡率の高さとが、複数の要因を介してつながるわけだ。

こんなふうに、資料の中から、または資料以外からも、不健康な食生活につながりそうな要因を考えて、それを平均年収と結びつけられないかどうかを考えるとよいだろう。

問3は、問2で図示した内容を単に文章として説明すればよいだけだ。基本型Aを応用して、最初に糖尿病死亡率と肥満との因果関係をズバリ示した上で、それと平均年収とがどんな要因を介してかかわるのか、つながりごとに段落を替えて説明するとよいだろう。

◎執筆者の許可なく本紙の全部もしくは一部を無断転載、無断複写することを固く禁じます。